

## 令和2年度 事業報告

近年の青果物をめぐる情勢は、生産現場の担い手不足に加え、異常気象や鳥獣害などの栽培環境の不安定化により、ますます厳しさを増している。さらに令和2年産においては、コロナ禍による加工業務用野菜の需給が不安定となり、相場に大きく影響した年となった。

春作では「たけのこ」が表年で大幅に数量は増加するも、他品目は4月の低温、5月の降水不足、長梅雨による病果の発生等の影響を受け、数量は伸び悩む形となった。

夏秋・秋冬作では、8月期の高温干ばつの影響を受け、出荷序盤は生育の遅れや品質の低下はあったものの、その後は台風の上陸なども無く好天が続いたことで11月以降は順調な出荷となり、年末年始には大雪によって一時的に数量は減少したが、比較的安定した出荷が続いた。

販売については、春作ではコロナ禍による業務用需要の低迷により「たけのこ」「太きゅうり」「山菜」等が販売苦戦となるも、他品目では巣ごもり需要による量販店での動きが好調で概ね堅調な相場となった。

主力品目の「すいか」は長梅雨の影響から、7月中旬以降の最盛期の販売にブレーキが掛り、7月15日以降の相場が低迷した。

秋冬作では、10月までは不安定な出回り量から堅調な相場展開となっていたが、11月に入ると全国的に豊作基調となり、潤沢な出回り量から重量野菜・葉物野菜を中心に徐々に相場は下がり、冬場に一時的に回復する場面も見られたが、近年にない安値相場の販売展開が続いた。

これらのことから、本制度対象となる野菜類（果実的野菜、菌茸類を含む）の当年度共販実績は、出荷量 24,237 t（前年比96%）、販売単価 223円/kg（前年比107%）、販売金額 5,413百万円（前年比103%）となった。

こうしたなか、交付金の支出については、一般業務のちんげんさい・きゅうり・キャベツ・にんじんで503千円（前年同期1,614千円）、特定業務のすいか・かぼちゃ・夏秋きゅうり・夏秋トマト・ミニトマト・こまつな・ブロッコリー・秋冬だいこんで5,237千円（前年同期22,973千円）となった。